

公共施設再編市民ワークショップ参加者アンケート 集計結果

(平成 26 年 6 月 28 日ご出席の 29 名の方の回答)

① 市民ワークショップへの参加の動機

1 市の広報やホームページなどを見て、以前から公共施設の再編に興味があったから	9 人 (33%)
2 市民ワークショップの案内チラシを見て興味を持ったから	10 人 (37%)
3 その他	8 人 (30%)

無回答 2 人

② 市民ワークショップの内容

6/21	「公共施設再編の取組状況の報告」は理解できましたか				【主なコメント】
はい	←	→	いいえ		<ul style="list-style-type: none"> 理解できたが、多くの市民にもっと知らせてほしいと思った。 鎌倉市として 10 年後、20 年後に向けてのビジョン等が見えないので、一般論しかわからなかった。
4	3	2	1		
13 人 (45%)	7 人 (24%)	3 人 (10%)	5 人 (17%)		
6/21	「発想転換の公共施設再編」(南学 氏) は理解できましたか				【主なコメント】
はい	←	→	いいえ		<ul style="list-style-type: none"> 全く違う地域の事例の写真を交えて非常に参考になった。新しく効率的な考え方でした。 長所と短所と両方を知りたかった。 再編、削減、効率化が主でしたが、行政サービスの質の再編もあってほしい。
4	3	2	1		
14 人 (48%)	7 人 (24%)	5 人 (17%)	3 人 (11%)		
6/21	ワークショップ (公共サービスの評価) の内容は理解できましたか				【主なコメント】
はい	←	→	いいえ		<ul style="list-style-type: none"> 施設とサービス・機能を分離するという考え方をよく理解できたとともに、重要性の認識を深めることができました。 グループ討議の時間がもっとあるとよい。役割で考えるというのは良かった。 サービス、施設の内容がよく分からない。
4	3	2	1		
14 人 (48%)	8 人 (28%)	5 人 (17%)	2 人 (7%)		
6/21 6/28	ワークショップ (公共施設再編シミュレーション) の内容は理解できましたか				【主なコメント】
はい	←	→	いいえ		<ul style="list-style-type: none"> ゲーム感覚で一つ一つの施設の果たしている役割と現状の深い理解もなく、簡単に切り捨てられていた。 内容は理解できたのですが、その目的やこのことをどのように鎌倉市が活用していくのが、よく伝わってこなかったです。
4	3	2	1		
13 人 (45%)	9 人 (31%)	5 人 (17%)	2 人 (7%)		
全体	ワークショップに参加して良かったですか				【理由】
はい	←	→	いいえ		<ul style="list-style-type: none"> 大変勉強になった。いろいろな市民の考えを知ることができた。こういう機会を是非また設けてほしい。 問題をシンプルにするシミュレーションのフレーム、進め方、参加者のモチベーション、効率のいい議論の進行とともに、バランスよく充実感のあるワークショップでした。
4	3	2	1		
16 人 (55%)	6 人 (21%)	3 人 (10%)	4 人 (14%)		
全体	ワークショップに参加して公共施設に対する認識は変わりましたか				【変わった点】
はい	←	→	いいえ		<ul style="list-style-type: none"> 施設は、ただそこにあればよいと単純に考えていたが、そこに存在させることの難しい側面がいくつもあると分かった。 再編の必要性は認識していましたが、市民同士の実感を伴った意見で各施設の必要性、優先度等自分にはない視点での認識を持てた。
4	3	2	1		
13 人 (45%)	5 人 (17%)	3 人 (10%)	8 人 (28%)		

③ 自由意見について

【再編手法について】

- ・ IT 関連が足りなかった印象を持ちました。
- ・ 公共施設の利用率をもっと上げることを考えたい。（利用率が低いから収支が合わない）
- ・ 守るべき施設、民営化はできない施設、再編できない施設。まずそこをしっかりと定めるべきだと思った。その上で、再編できる施設は再編する必要がある。
- ・ 民間の力を用いることも良いが、市民力で市民との協働を是非再編に活かしていただきたい。
- ・ 古い建物を壊すのは簡単だが、歴史的施設は何とか残してほしい。
- ・ 農のセンターとして、地産地消の生産拠点化。
- ・ メガソーラーの導入。
- ・ 緑あふれる住環境への再開発など。
- ・ 行政窓口サービスについて、例えば IT サービスを利用した 24 時間電子市役所的な「サービス」についての検討がほしい。
- ・ 小学校の統廃合はしないという事でしたが、根本的な対策としての検討は必要かと思います。例えば、稲村ガ崎小学校と七里ガ浜小学校を統合して、七里ガ浜小学校に集約し、稲村ガ崎小学校の児童は「スクールバス」で七里ガ浜小学校に運ばば稲村ガ崎小学校を高齢者向け施設として再利用できると思います。札幌の資生館小学校の例を用い、今後の学校の集約化を検討してみてください。
- ・ 県の施設や市の施設の活用を各班の中に活かしてもよかったと考える。
- ・ 今回のメインテーマは、箱物のリニューアルコストの削減だった為、売却・集約等の手段が多かった中で、民間委託も提案された。
- ・ 民間委託、即利用料金アップではないと思う。利用料金アップは、箱物が遠くなってしまふことに対する”がまん”で済むのに比べ、市民の活動を阻害する度合いがはるかに大きい。
- ・ 寄付された建物は指定管理で経費を掛けるだけでなく、賃貸して収益をあげる方法を考えるのも一つの形だと思った。
- ・ 施設再編の前に、市内の交通渋滞を先に計画してほしい。商業車の乗り入れはよいが、観光客や市民の乗り入れは正月に規制してほしい。それでなければ、施設再編を実行し、他に移転、統合しても活かされない。
- ・ 今後、お金をかけないで、公共施設に赤ちゃんからお年寄りまで多くの市民が集えるようにするために、施設を大切に管理運営していく力を持つ市民が市内に大勢いるので市民に愛される小さな施設を点在させること、大型複合施設で民間が儲かるのではない、それこそ発想の転換をして頂きたいと思います。
- ・ サービスや再編による運営は、地元の事業者、NPO など民間の知識やアイデアを公募し、OPEN な審査のもとに委託すべき。
- ・ 旧鎌地区の担当で、班としてはドラスティックなプランを提案しましたが、他班の発表も各地区それぞれの事情と課題を十分にふまえていて非常に示唆に富んでいました。
- ・ 特に大船、玉縄地区は住宅地の過疎化、高齢化の課題とともに農地を含めた広大な土地のポテンシャルを有効活用することができるし、旧鎌ではできない先進的な地域経営、地域経済モデルを実現できるのではという大きな可能性を感じました。
- ・ 行政サービスのあり方は不変ではないので、利便性を高めてほしい。江東区役所では夜 8 時まで開庁していたり、土日でも開庁しています。世の中が 24 時間化しているのに、行政は旧態のままではないか？利便性が高まれば、市役所ではなくて近くのコンビニでまかなえるのという話になるのでは？このような市のあり方を説明してほしい。
- ・ 存続の危機に面する市民団体も出る可能性すらあると思う。利用する団体毎の実態に合わせたキメ細かい行政サービスを考えて欲しいと思いました。
- ・ 岩瀬在住ですが、鎌倉都民にならない為にも道路行政をしっかりとやれば、なくなる様に思う。（トンネルの充実(新設)が交通が良くなると考えます。

【再編シミュレーションの前提条件について】

- ・ 近未来のこととしてとらえたかった。
- ・ どんな町にするかの基本と根本的な財政問題が見えない。
- ・ 「グランドデザイン」がない。
- ・ つまり、20 年後の市としてのコンセプトの提示が必要だと思う。
- ・ 20 年後という想定でしたが、将来像に対する夢とか想像力の面でもう少し広げて頂けたら住みよい町づくり楽しい町づくりになれたともいえました。
- ・ Methodology として最初にコンセプトづくりから入れば、結果が少し違ったのではないのでしょうか。
- ・ 20 年後ではなく、10 年後を考えることが重要であろう。作業内容を事前に知る機会も必要であろう。
- ・ 建築設計の立場から。建物の寿命を築年数で判断してほしい。建築史的な見解もあるし、住民として

の思いも建物に込められていることを理解した上で、各施設の活用が歴史文化都市鎌倉には必要であると思います。

- ・データをワークショップの参加者に事前にもっと出してほしい。施設ごとの歴史、年間維持コスト、耐震工事にどれくらいかかるのか。売却すると収益はどうかなど、データがあれば話も深まったと思う。
- ・総括の意見交換でも出ていたが、市のサービス提供の大きな方針、街づくりの大方針、20年後のビジョン（市政、市民の暮らし、市民の構成など）といった大前提を市長や担当部局から説明があつて、施設再編コストカット以外の側面での共通の目標、市としての理念、地域ごとの役割分担などの共通認識を持つて進められた方がよかったと思う。
- ・この30年間で、市町村合併が増えて、次には道州制まで予想される。

【ワークショップの進め方について】

- ・進行の仕方について、一日目意見を出す時間が無く進んで残念でした。
- ・ワークショップの司会は市役所、職員がやるべきであり、コンサルタント会社も市民ではないせめて神奈川県内でセレクトしてほしい。再編計画のメンバーにも問題があるであろう。市民で選ぶべきであるし、市民ボランティアの講師も出来る。ペイを払うのはもったいない。市民をバカにしているのではないか。
- ・無駄を省くための取組に無駄が多すぎだと感じました。南氏、増井氏、パシフィックコンサルタンツ2名の方、ボランティアでなさっているならともかく、市の予算をどれだけ使っているのか是非公表してください。
- ・鎌倉に越してきて、この鎌倉を愛しています。市役所で働いていらっやらない方が、何人も参加していて、その方たち中心で、もっと民主的に二日を過ごせたのではないかと思います。
- ・短い時間で、その中でも度々ストップがかかり、一つ一つの施設の現状に関して、余り知らない人を含め、ゲーム感覚で、無くしたり、統合したり、どんな意味があるのでしょうか。
- ・ゲーム形式は良いか？ゲームにはまると、どんどん施設を売却する方向に走ってしまう。これはまずい。ゲームの形を再検討してほしい。残すべきものは残すとのコンセプトも必要。
- ・今回のワークショップは、進行など全てがパシフィックコンサルタンツに丸投げしていて、人件費を考えただけでも、税金の無駄使いを思いました。鎌倉市の職員の方が、研修しそれを実施すればよかったのでは無いでしょうか。
- ・目的に市民の意見を聞くつもりでしたが、それぞれの市民の感じている課題を話す時間も無く、スピードでゲームを進行していく、この手法は子どもじみていて、不快に思いました。実態を掴もうという意図は全く見えず、ゲーム感覚でこの施設は廃止⇒売却⇒経費削減ということのみ目的となり現実的でないバーチャルの中の達成感を味わうことになってしまい、問題を感じました。
- ・グループ討議でも、よい意見が出されていたのですが、途中で電気をつけたり消したり、説明あつたりで時間足らずでした。でも1グループのコンセプトとこんな街にしたい項目はみんなの思いでまとめられたと思いました。

【ワークショップの参加者募集について】

- ・公共施設再編のワークショップというよりも自分の意見を言いたい人ばかりが集まってしまい、新しい意見は少なく、少し残念な感じでした。
- ・年齢が高い。若い人がいなければ意味がない。
- ・ワークショップ日付の設定に無理がある。こういった場なら参加したい人は多くいるはず。申し込みが直前過ぎるし、同じ月の土日の長時間をなかなかさけない働き盛りの30代、40代、託児を設けるなどしてほしい。人選に問題がある。講義中に昼寝をしている年寄りたち。男女比や年齢に偏りがありすぎる。実際に公共施設利用が多いのは主婦じゃないのか。20代～40代がほとんどいない。子育て世代がいいるのか。
- ・ワークショップで参加者を居住年数も考慮の上、組み合わせたいほうがよいと思う。居住年数の浅い人が活発であると思うが、居住年数に応じて、土地への想いの強さや認識に差があるのは当然のことなので、交流といった意味でも新旧居住者の比率を50/50にしたほうが良いかと思いました。
- ・極論ですが、高齢者の方は、クレームばかりで後ろ向きな意見が多いので、参加しないしてほしいです。代わりにリアルに子育て世代や学生、20代前半のサラリーマン、OLなどを参加促進したほうが良いです。
- ・市民に対しての周知が足りず、参加人数も予定より少なかったのではないか。2週続きの土曜では公共施設をよく利用する主婦、子育て世代の参加はほとんどなく、実態が見えにくいと思いました。

【その他】

- ・市役所を無くすというシミュレーションが出てきたことに何を感じられたでしょう。地方自治の基本を担う市役所に対してです。
- ・今後も市民の意見を聞く機会を設けてほしい。

- 公共施設の再編については、より多くの市民の意見をくみ取り、集約し、その上で専門家の方と市が具体的に進めていくべきものだと思うので、このようなワークショップよりもより多くの市民の方に情報を提供し（インターネットだけでなく）、具体的な意見を聞く場を設ける方が良いのではないかと思います。
- 情報公開の立場から、市民感覚の新しい発想で充実したワークショップになったという曖昧な結論にしないで、参加者から指摘があった数々の問題点を全て議事録として公開され、次回以降、改善していただきたいと思います。
- 行政施策にどのような影響を与えるのか。今後のまとめ作業結果が公開されると良い。